

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6 年 5月 22日

事業所名 こどもプラス豊見城教室

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	0	0	活動内容や人員により、グループ分け等をして対応している。	室内外活動だけではなく、外部活動を積極的に取り入れたい。
	2	職員の配置数は適切である	10	1	0	シフト管理を徹底し、配置基準に沿うようにしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	4	3		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	10	1	0	ミーティングを通して、情報共有をしながら、各種計画や改善点の検討・検証を行っている。	職員個々も、年2回、キャリアプランを作成し、業務推進の在り方について検討する機会を設けている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	1	0	アンケート結果のみならず、保護者等から申し出があった際は、適宜適切に対応し、業務改善に務めている。	アンケートの結果を適切に公表し、業務の改善に努める。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11	0	0	ホームページにて公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	11	0	0		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11	0	0	毎月FC本部が行う研修を受講しているほか、外部研修にも積極的に参加している。	受講できなかった職員や、パート職員への伝達研修を徹底する。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	11	0	0	定期的に個別支援会議を開き、個別支援計画書に反映している。	全職員が対象児童の状況を把握できるよう、積極的に関わりを持つようにしたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	0	0	FC(こどもプラスホールディングス)本部から提供されているツールにより対応している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	1	0	日々担当者を決め、プログラム案を作成して、チーム内で共有して実行している。	運動遊び考案書を作成して、「運動内容、養う力、留意点」等を職員間で共有している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11	0	0	日々担当を変えながら、活動のマンネリ化防止を図っている。	FC(こどもプラスホールディングス)本部から提供される月刊誌を参考に、日々のプログラムを作成している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	10	1	0	月間計画を立て、活動目標を設定した上で、日々の療育に努めている。	今後も児童の意見を取り入れたサービスの提供を心掛けていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	11	0	0	言語聴覚士や作業療法士による個別対応や、運動・外出等の集団療育を組み合わせで行っている。	今後も、きめ細やかなサービス計画の策定を心掛ける。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11	0	0	就業前のミーティングにより、各種情報共有や、役割分担を行っている。	打ち合わせ内容について、不在職員が確認できるよう、記録を残し、全職員が共有できる環境を作っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11	0	0	終業後のミーティングにて情報を共有し、良好点や改善点の確認を行っている。	打ち合わせ内容について、不在職員が確認できるよう、記録を残し、全職員が共有できる環境を作っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11	0	0	日々の活動記録を必ず作成し、職員間で共有して、支援内容の検証等を行っている。	システムにより管理しており、容易に閲覧が可能となっている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	11	0	0	関係者とモニタリングを定期的に行い、支援内容の方向性について協議している。	モニタリング内容は、職員間で共有し、専門職員らの意見を反映させている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	10	1	0	基本に則り、特性に応じて複数組み合わせ支援内容としている。	支援内容について、必ず専門職の意見を反映させている。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10	1	0	児童発達支援管理責任者のほか、関りの強い職員が参画している。	会議内容については、職員間で共有し、療育に反映させている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	11	0	0	児童・保護者からの聴取のほか、学校からの案内文の確認、迎え時に学校から聴取する等して適切に実施している。	漏れが無いように、変更等があれば、記録して閲覧できるようにしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	10	1	0	現時点、対象児童が在籍していないが、受け入れ時は体制を整える。	入所契約時に、確認を徹底する。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	1	2	保護者からの聴取のほか、相談員を通じて情報共有に努めている。	併用している事業所がある場合は、当該事業所との連携強化に努める。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	10	0	1	これまで対象者はなし。	今後、対象者がある場合は、相談員等を通して、会議を行い、就労支援事業所等と協議していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11	0	0	必要に応じて実施している。	関係機関とより綿密に連携を図り、支援の充実を図りたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7	3	1	コロナ自粛以降、回数が減っているが、自粛が解除されたため、積極的に実施していく。	他教室の児童との交流や、近場で開催されていることも広場での交流を積極的に行う。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	10	1	0	各種協議会等があれば、参加している。	特定の職員がだけでなく、全職員が対応できるよう心掛けたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11	0	0	保護者に対し、活動報告をLINEにて行うほか、送迎時に面前で申し送りを行い、意見交換を行っている。	保育所等訪問を行っている児童に対しては、実施結果を都度報告している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	9	2	0	必要に応じて、担当者により実施している。	全職員が実施できるよう、FC研修や想定訓練等を実施して、スキルの向上を図りたい。
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11	0	0	契約時に細部にわたり説明を行っている。	理解を深めるため、職員に対しても様々な機会を通じて教育を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11	0	0	保護者から相談があれば、都度適切に対応している。	相談内容は、職員間で共有し、必要な支援と助言を心掛けている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10	1	0	年2回程度、保護者会を開催しており、球技大会や料理会等を通じて、交流を図っている。	参加率を向上させるため、保護者会の時期や内容を工夫していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	11	0	0	マニュアルを策定しており、体制を構築している。苦情の申立てがあった場合は、機を失することなく組織的に対応している。	室内に意見箱を設置し、間接的な申し出に対しても、適切に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11	0	0	毎月FC(こどもプラスホールディングス)本部が発行する会報や月間予定表の配布等で周知している。	保護者会の開催等、広く周知が必要な事務連絡については、その都度LINEにてお知らせしている。
	35	個人情報に十分注意している	11	0	0	個人情報の保護について、契約時に説明を行っており、配布物等についても、十分配慮している。	活動ブログに掲載する際も、個人を判別できないようにスタンプ貼付等を行い、情報の保護に努めている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11	0	0	児童の特性に応じた意思の疎通・情報伝達を心掛けている。	情報伝達に漏れと誤解が生じない様、職員間の連携強化を図りたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	3	2	地域で開催されるイベント等には積極的に参加しているが、事業所ではイベントを行っていない。	近隣住民の駐車場利用は積極的に受け入れ、関係性を構築している。今後は自治会等と連携して、施設を利用したイベントの開催を計画したい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	11	0	0	各種マニュアルを策定し、事業所に備え付けている。	法人内で対策委員会を開催している。職員に対する各種教育を強化し、保護者に対しても、取り組み状況を周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11	0	0	マニュアルを策定して体制を構築しており、年2回程度、想定訓練を実施している。	法人内で対策委員会を開催している。職員に対する各種教育を強化し、保護者に対しても、取り組み状況を周知していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	0	0	マニュアルを策定し、体制を確立している。また法人内で対策委員会を設置し、虐待防止に努めている。	虐待防止に関するFC研修や、外部研修を受講して、職員の意識向上を図っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9	2	0	該当する事例が無いが、身体拘束については、要件と手順等を定めたマニュアルにより、厳格に行うこととしている。	身体拘束適正化委員会を設置しており、その結果を職員に周知している。本件に関して、検討・判断が迅速かつ的確に行えるよう、職員に対する教育を実施していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	0	1	契約時に保護者からアレルギーに関する事項を必ず確認している。	現時点、対象児はなし。対象児童が利用した場合は、医師の指示書に基づき、適切に対応していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11	0	0	ヒヤリハット事案発生の際は、概要とその対策を所定の様式に記載し、事業所で保管している。	作成した文書は全職員が回覧し、他事業所に対しても共有を図っている。